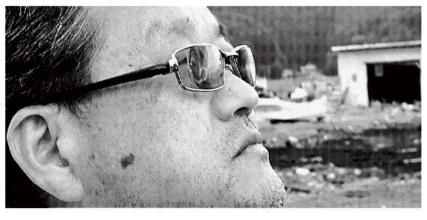

希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100―8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災 サポート情報

20日現在

奨学金

各種団体や民間企業が、東日本大震災で被災した家庭の学生を対象に、奨学金受給者を募集している。

浦上奨学会　全国10大学の学部生に、毎月10万円を最短の修業年まで給付する。11年度は各大学1人の計10人、12年度以降は5人、10年間で延べ40人に給付予定。

対象は、東北大▽筑波大▽東京大▽東京工業大▽横浜国立大▽早稲田大▽慶応大▽名古屋大▽大阪大▽京都大。大学を通じて申し込む。締め切りは30日。問い合わせは同奨学会☎0847・41・1140。

松尾育英会　東京都板橋区の寮から通学できる東京近郊の大学に通う男子学部生に、卒業まで学資金▽通学費▽食費▽医療費を給付。また学生寮にも無料で入寮できる。募集人数は7人。問い合わせは同育英会☎03・3579・0041。

双日復興支援教育基金　大学学部生を対象に、卒業まで月7万円を給付。11年度から15年度まで毎年30人、計150人を募集する。今年度は7月22日までに各大学を通じて応募する。対象大学などの問い合わせは、日本国際教育支援協会事業部国際交流課☎03・5454・5274。

三菱ＵＦＪ信託奨学財団　岩手大、福島大の2～4年生を対象に、各大学3人まで年36万円を給付する。被災県出身者で成績上位者であることが条件。大学を通じて申し込む。問い合わせは各大学の窓口へ。

給付・貸付

社会福祉協議会が緊急貸し付け　東日本大震災で被災し、各地に避難した世帯を対象に、10万円（家族に死亡者がいるなどの特別な場合は20万円）を貸し付ける。無利子で返済期間は2年。連帯保証人不要。期限までに返済が終わらない場合、残元金に対して年10・75％の延滞利子が発生する。

対象は、地震や津波で被災した地域や、原発事故で退避指示となった地域に住所があり、当座の生活資金を必要とする世帯。健康保険証など住所が確認できるものと、印鑑が必要。避難先の市区町村社会福祉協議会で申し込む。

その他

登記に関する電話相談　仙台法務局は、不動産や会社登記に関する被災者からの相談を受け付ける専用フリーダイヤル☎0120・227・746を開設した。

倒壊・流失した家屋の登記申請や、相続に関する手続き、会社の役員変更手続きなどが対象。平日8時半～17時15分、休日9～16時。

ボランティア

民間ボランティア団体がボランティアバス参加者を募っている。

◇盛岡発沿岸被災地支援ボランティアバス　25、26日。盛岡発着の大槌町行き日帰りバス（定員45人）。6時半ＪＲ盛岡駅マリオス正面、6時50分ふれあいランド岩手。帰着は19時予定。がれきの撤去や泥出し、家財道具の移動、物資の仕分けなど。

作業ができる服装や長靴、ゴム手袋などを用意し、スコップ、飲料水、食料持参。事前に居住地または最寄りの社会福祉協議会でボランティア活動保険「天災タイプ」に加入する。バス運賃は無料。申し込みは盛岡市社会福祉協議会☎019・651・1000（8時半～19時、25日は15時まで）。

労災・未払い賃金 申請を

各地の労働局や労働基準監督署が、震災で行方不明の人が亡くなったと推定し、労災保険の遺族請求や未払い賃金の立て替え払い申請を受け付けている。

労災保険は、業務中または通勤中に被災し、行方不明になった人の家族が請求できる。未払い賃金は、震災で行方不明になり、勤めていた企業も倒産状態になった人の家族が申請できる。賃金は震災から6カ月以内に申請する必要がある。問い合わせ先は左の通り。

労災と未払い賃金の問い合わせ先

岩手	岩手労働局	
	労災補償課（労災）	019・604・3009
	監督課（未払い賃金）	019・604・3006
	盛岡労基署	019・621・5115
	宮古労基署	0193・62・6455
	釜石労基署	0193・23・0651
	花巻労基署	0198・23・5231
	一関労基署	0191・23・4125
	大船渡労基署	0192・26・5231
	二戸労基署	0195・23・4131
宮城	宮城労働局	
	労災補償課（労災）	022・299・8843
	監督課（未払い賃金）	022・299・8838
	仙台労基署	022・299・9071
	石巻労基署	0225・22・3365
	古川労基署	0229・22・2112
	大河原労基署	0224・53・2154
	瀬峰労基署	0228・38・3131
福島	福島労働局	
	労災補償課（労災）	024・536・4605
	監督課（未払い賃金）	024・536・4602
	福島労基署	024・536・4610
	郡山労基署	024・922・1370
	いわき労基署	0246・23・2255
	会津労基署	0242・26・6494
	白河労基署	0248・24・1391
	須賀川労基署	0248・75・3519
	喜多方労基署	0241・22・4211
	相馬労基署	0244・36・4175
	富岡労基署（仮事務所）	0246・68・6044

ニーズ情報

看護師の支援急募

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

■共同支援ネットワーク
（仙台市）
kyoudounet@gmail.com
http://www.clc-japan.com/jishin_b.html

看護師ボランティアを急募　6月28日～7月2日か、6月28日～7月5日に活動できる看護師ボランティアを募集。宮城県内の保健施設などで活動。長期に活動できる方歓迎。共同支援ネットにメールで連絡を。

支援物資求む　扇風機▽掃除機▽オーブン▽トイレマット▽バスマット▽ラグ。いずれも新品で。みなさまのご理解とお心遣いをお願いします。お米は必要量が確保できたので、受け付けを一時中止します。

■遠野まごころネット
（岩手県遠野市）☎0198・62・1001
tonomagokoro@gmail.com
http://tonomagokoro.net/

被災者とボランティアが懇親会　岩手県遠野市に移住した被災者と、市民・ボランティア計約50人が19日、市総合福祉センター前駐車場で応援懇親会を開いた。

豚汁、ジンギスカン、クレープなどの出店、吉本興業の芸人のお笑いライブ「とおのあおぞら花月」、ミュージシャンの千葉和さんの演奏があり、参加者がほっとしたひと時を過ごした。

今後の予定は遠野まごころネットのホームページ、新聞や駅・お店に置いたチラシでお知らせ。ボランティアも引き続き募集している。

■ふくふくプロジェクト
（福島市）☎024・526・4533
f-ssc@bz01.plala.or.jp
http://www.f-npo.jp/

支援できます　福島県から県外に避難されている方で、米、生活用品など支援が必要でお困りの方は、ぜひご連絡ください。全国の皆さんから寄せられた温かい支援物資を差し上げることができます。引き続き、県内外に避難されている多くの方を支援していきます。全国のみなさんのご協力をお願いします。問い合わせはＮＰＯ「花見山を守る会」（☎024・539・8908）の高橋さん。

防災活動 縁つなぐ

兵庫の高校 避難所からメール、現地で再会

備える伝える未来へ

'11年度 ぼうさい甲子園

＜下＞

「（私を）覚えていらっしゃるでしょうか？」――。東日本大震災から9日後の3月20日、兵庫県立舞子高（神戸市）環境防災科3年の阿部美汀（みぎわ）さん(17)の携帯電話に、岩手県釜石市の避難所で生活する岡田茉南花（まなか）さん(14)＝市立釜石東中3年＝からメールが届いた。阿部さんはすぐ返信した。「覚えてるよ。ずっと心配してたよ」

釜石東中は、ぼうさい甲子園で2年連続で優秀賞を受賞していた。岡田さんは今年1月、神戸市であった表彰式を前に、阿部さんらと知り合っていた。

4月28日、阿部さんは環境防災科の諏訪清二科長らと釜石市を訪れた。阿部さんと岡田さんは給食を一緒に食べ、学校や部活の話などで盛り上がった。舞子高は06年のぼうさい甲子園でグランプリを受賞。国内外の被災地を支援し、近年の表彰式では毎回支援活動を特別報告している。

4月上旬には生徒18人が、宮城県石巻市で学校の再開を支援した。5月上旬から4週間、約150人が4班に分かれて1週間ずつ、宮城県東松島市で、民家の泥出しなどのボランティアをした。諏訪科長は「支援をしながら、被災地の実態や当事者の気持ちを理解することが大切だ」と話す。

岡田さんは阿部さんについて「すごく大切なつながりができた。また会いたい」と願う。（この連載は堀江拓哉が担当しました）

「ありがとう」。泥かき作業をした民家前で、その家の子供（左）から「お礼に」と菓子を渡される兵庫県立舞子高環境防災科の生徒たち＝宮城県東松島市大曲で５月８日、中尾卓英撮影

ぼうさい甲子園 募集します

毎日新聞社は、優れた防災教育の取り組みを顕彰する2011年度「ぼうさい甲子園」を、兵庫県などとの共催で実施します。東日本大震災にかかわる取り組みには特別賞を出すことも予定。締め切りは９月30日で応募・問い合わせは〒663―8201兵庫県西宮市田代町14の８の105、ＮＰＯさくらネット内　ぼうさい甲子園事務局＝電話0798・64・5829、ファクス0798・65・5254、メールbousai_koushien@yahoo.co.jp

---

伝言板

就活スーツをどうぞ

▼就活用スーツ譲ります　東京都墨田区の田中誠さんが、就職活動中に着用していた男性用スーツ2着を譲ります。2着とも色は濃紺でサイズは身長170㌢、股下78㌢、90ＹＡ5（胴囲76㌢）と92Ａ5（同80㌢）があります。上着は三つボタン、ズボンの裾はシングルです。半年間着用し、クリーニング済みです。送料は田中さんが負担します。希望者は住所▽氏名▽電話番号を明記して、ファクス（03・3624・6882）を日中に送ってください。田中さんは希望していた企業の内定が取れ働き始めたそうです。希望新聞宛てのメールに、「被災地のみなさんに運気も届けばよいのですが」と、メッセージがありました。

▼扇風機送ります　東京都千代田区の塩尻哲子さん(65)が、被災した方に扇風機1台を無料で送ります。日立のＨ―301Ｃ、おやすみタイマー付き。00年2月に生産終了しています。経営する会社用に買いましたが、ほとんど使っていません。「会社のファクス（03・3294・0823）に住所、氏名、連絡先を書いて送ってください」

声 被災者から

晴れの日の大切な一枚

震災後に見つかった夫婦の写真を手にする港川雄光さん（左）と妻次子さん

岩手

大槌町の吉里吉里地区体育館に避難している港川雄光さん(77)と妻次子さん(72)「津波で自宅が流され、思い出の品は全て失われたと思いましたが、約20年前に娘の結婚式で撮影した私たち夫婦の写真が見つかりました。大切な一枚です。避難所では食事には困りませんが、やはり家族だけでゆっくり過ごせる場所がほしいです。いつまでも避難所に居続けたいと思う人はいないはず。一刻も早く仮設住宅を用意してほしいです」【松田栄二郎】

福島

役場機能を移転した二本松市で避難生活を送る浪江町職員、吉田信一さん(31)「身重の妻(31)と2歳の長男は新潟市を経て、いまは猪苗代町に避難しています。放射線が気になります。最近は週1回家族の元に行けるようになりましたが、離れて暮らす生活がいつまで続くか分かりません。私は公務員ですが、町はいま税収がなく不安です。一人になると考え込んでしまいます」【青島顕】

身重の妻と２歳の長男と離れて暮らす浪江町職員の吉田信一さん

◆電◆話◆帳◆

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警　0120・801・471
宮城県警　022・221・2000
福島県警　024・522・2151（内線3024）
●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連　0120・755・199（９～18時）
放射線医学総合研究所相談窓口　043・290・4003（９～17時）
●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会　0120・755・745（月～土曜13～16時）
仙台弁護士会0120・216・151（平日10～19時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
あしなが育英会 被災者専用 0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン　0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番　0120・214・888（10～16時）
●省庁　※平日のみ
公営住宅等情報センター　0120・297・722（９～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省）　0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局）　0120・511・556
金融相談（東北財務局）　022・721・7078
中小企業相談（経産省）　0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省）　0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※
●金融・保険　※平日のみ
預金口座照会センター（全国銀行協会）　0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会）　0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会）　0120・107・808※
携帯・ＰＨＳからは03・3255・1306※
●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市　高田町鳴石　0192・54・2111
釜石市　シープラザ釜石　0193・22・8253
大槌町　大槌小学校　0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町　女川第二小学校　0225・54・3131
南三陸町　町総合体育館ベイサイドアリーナ南側テニスコートの仮庁舎　0226・46・2600
＜福島県＞
広野町　ＦＤＫモジュールシステムテクノロジーいわき工場　0246・43・1331
楢葉町　会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
富岡町　郡山・ビッグパレット　0120・336・466
川内村　郡山・ビッグパレット　0120・38・2119
大熊町　会津若松市追手町第２庁舎　0242・26・3844
双葉町　旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
浪江町　県男女共生センター（二本松市）コールセンター　03・5638・5055
葛尾村　旧法務局会津坂下出張所　0242・83・0271
★一時立ち入り受付センター0120・208・066
警戒区域９市町村への一時立ち入りを申し込める。８～20時

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（ＶＣ）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なＶＣ窓口は次の通り。

＜岩手県＞

県ＶＣや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。

◆県ＶＣ　☎019・637・7594　サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各ＶＣの募集情報を公開中
◆遠野市ＶＣ「遠野まごころネット」　☎0198・62・1001　遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可
◆宮古市ＶＣ　☎090・4478・3984　個人、団体とも１週間前までに電話連絡を
◆陸前高田市ＶＣ　☎090・2852・9736　できるだけ２人以上で参加し、３日前までに連絡
◆大槌町社協ＶＣ　☎080・3518・8490　５人以上の団体で要事前登録。個人参加は県ＶＣの盛岡発ボランティアバスを利用する

＜宮城県＞

各ＶＣが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各ＶＣのサイトで。

◆仙台市ＶＣ　☎022・231・1326　５人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み
◆石巻市ＶＣ　☎0225・23・6015　10人以上の団体は要事前連絡
◆気仙沼市ＶＣ　☎080・5949・7475　10人以上の団体は３日前までに事前連絡
◆名取市ＶＣ　☎022・784・3029　団体は要事前問い合わせ
◆多賀城市ＶＣ　☎080・5949・7501
◆岩沼市ＶＣ　☎080・5949・7541　８人以上の団体は要事前申し込み
◆東松島市ＶＣ　☎0225・82・9812　車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。５人以上のグループは早めに事前申し込みを
◆亘理町ＶＣ　☎080・5949・7719　団体は要事前申し込み
◆山元町ＶＣ　☎080・5949・7720　要事前申し込み
◆七ケ浜町ＶＣ　☎090・6853・4490　団体は要事前申し込み
◆南三陸町ＶＣ　☎080・2055・1066　県内外問わず団体も受け入れ中

＜福島県＞

◆県ＶＣ　☎024・522・6540
◆相馬市ＶＣ　☎0244・36・7827
◆南相馬市ＶＣ　☎0244・24・1877　公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を
◆新地町ＶＣ　☎0244・62・5577　要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止
◆いわき市ＶＣ　☎0246・22・5501　団体は要事前申し込み

三陸物語

Sanriku Monogatari

全盲の鍼灸師 藤原正さん⑥

肌に迫った燃えさかる町

寝ずに明かした津波の夜、藤原正さん(53)の心眼に映った風景は音と言葉が醸し出した。

「東京の○○です。××さん大丈夫ですか」。ラジオの声には、外の世界の人の息遣いを感じた。赤ちゃんの泣き声も心に染みた。「あれは双子だね」と妻の美幸さん(43)。双子の次女知代乃さん(14)と三女美代乃さん(14)が反応する。「抱いてるのお母さんとばあちゃんかな」

母久子さん(76)の自宅の電話と携帯にかけ続けるがつながらず、心配していると顔見知りのタクシー運転手がやって来て「お前のお袋、大槌高校にいだよ」と教えてくれた。ほっとした。

未明には、さすがに腹が減った。美幸さんが津波当日に「食いっぱぐれた」というおにぎり1個と、娘が家から持ち出した非常用の乾パンとスナック菓子を分け合って食べ、「うめえな」と小さな歓声を上げた。

日が昇り、体育館の外に出たら、近所の薬局の男性がいた。「どうなった」「家無いっす」「うそだべー」「何もないっす」。その時、「ボー」という音がして「バキバキ」「メリメリ」「ガラガラ」という音が続いた。100㍍ほど山を下った場所が炎上しているという。肌に熱を感じる。

燃えさかる家の2軒隣で、女の人が「助けて」と叫んでいるらしい。周囲に海水がたまり、逃げ道がない。「ヘリ来っから頑張れ」。誰とはなしに声を掛ける。「危険だから中に入って」と言われ、後ろ髪を引かれる思いで体育館に戻った。

逃げ遅れた女性のその後が気になって、ぼうぜんと椅子に座っていたら、いとこの男性の声が聞こえた。「わー、いだ」。涙声だった。思わず、みんなで泣いた。そして、久子さんも無事に親戚の家に避難したと聞いた。【萩尾信也】

◇

「三陸物語」は火～土曜日に掲載します。

津波で自宅兼鍼灸院が跡形もなく消えた現場を心眼でみつめる藤原さん